

獅子の見た夢

劇団東演公演
■協力■移動演劇校隊平和祈念会

戦禍に生きてきた演劇人たち

原作 堀川恵子

〔戦禍に生きてきた演劇人たち〕(講談社文庫より)

脚本 シライケイタ

演出 松本祐子

出演

豊泉由樹緒

能登剛

南保大樹

奥山浩

星野真広

原野寛之

小泉隆弘

中花子

三森伸子

古山華誉

宇坂ひなの

橘麦 (e-factory)

常深怜 (ラリィ)

羽生直人 (ラリィ)



「平和」「民主主義」を
口にただけで…。
それでも命をかけて芝居をやり続けた
新劇人たちがいた…。
彼らにとっての果てしなき夢とは!

芹沢銚介 画「六斎念仏」より

九演連の
会員の皆さんへ

コロナが少し落ち着いたかなと油断をせずに、気を緩めることなく日々運営サークルを中心に活動されている九演連の皆さんの所に、しかも2024年、築地小劇場開場100周年の締めにあたり、張り切らざるを得ません。例会成功に向け私たちもロマンをもって、21世紀の「桜隊」として伺います。大いに盛り上げましょう! 劇団東演一同

劇団東演公演 ■協力■移動演劇校隊平和祈念会

獅子の見た夢

戦禍に生きた演劇人たち

原作■堀川恵子「戦禍に生きた演劇人たち」(読談社文庫より)

脚本■シライケイタ 演出■松本祐子

美術■石井強司 照明■中島俊嗣 音響■山北史郎 衣裳■有島由生
お神楽指導■おかめ会・社中 舞台監督■井川学 制作■横川功

戦争一色のなか、自由を奪われ、検束の危険を冒しながら、それでも芝居をやり続けようとした新劇人たち。

劇作家・三好十郎、俳優・丸山定夫、演出家・八田元夫らが炎のように向かった先は……。

1945年(昭和20年)8月下旬、

八田元夫は世田谷・赤堤の三好十郎宅に

広島からやっとの思いでたどり着いた。

大事に抱えてきた風呂敷包みの中には丸山定夫の骨壺があった。

あの惨劇からまだ三週間もたっていない。

挨拶もそこそこに骨壺の前に、

二人は言葉少なに稀代の名優を偲び、まずい酒を酌み交わす。

突如男の声が割って入ってくると、

時は前年(昭和19年)の秋にさかのぼる。

丸山定夫はしきりに八田元夫を「苦楽座」の演出家として、

一緒に芝居をやるうと土下座までして説得をする。

しかし数年前検挙投獄されて以来、演出家登録は取り消されていて、

鑑札が無ければ演劇活動は出来ないのだ。

それでも丸山は諦めない……。

一方、戦局がますます厳しくなるなか、

苦楽座も大政翼賛会・日本移動演劇連盟に参加しない限り

芝居を続けられない状況に追い込まれていた。

せつなく創りあげてきた芝居もこのままでは上演出来ない……。

「僕は芝居がしたい、芝居がしたいんです」

「それしかお芝居やれる手段がないんですよね?」

やがて皆の心は一つとなって、広島へと向かうのだった……。



豊泉由樹緒



能登剛



南保大樹



奥山浩



星野真広



原野寛之



小泉隆弘



中花子



三森伸子



古山華誉



宇坂ひなの



橘麦
(e-factory)



常深怜
(フリー)



羽生直人
(フリー)

築地小劇場開場100周年

「築地小劇場」は、1924年6月、小山内薫・土方与志を中心に、日本で初めて新劇のための劇場が築地に建設され(1945年3月の下町大空襲で焼失)、今年が開場100周年にあたります。劇場と劇団が一体となったまさに近代演劇の幕開けとなり、治安維持法や戦争などにより結社・表現の自由は制限されるなか時代と向き合いながら活動、そこに集った若き俳優たちが後に新劇の中核となり多くの劇団を結成、現在に繋がっているのです。

北九州市民劇場 2024年11月例会

11月	14日(木)	15日(金)	16日(土)	17日(日)	18日(月)	19日(火)
昼		13:30	13:30	13:30	13:30	12:30
夜	18:30					

北九州芸術劇場 中劇場

北九州市民劇場とは

会員制の演劇鑑賞団体です。3人以上でサークルをつくってご入会ください。入会にあたっては一年(年間6例会)以上観つづけて下さい。

入会金 大人 2,000円 大学生 1,600円 小中高生 1,300円
月会費 大人 2,300円 大学生 1,700円 小中高生 1,000円

お問合せ・お申込みは **TEL 582-7200**